

指導日時 平成18年11月22日(水) 1限目
対象生徒 2年次生日本史B② 22名(男子3名、女子19名)
科目名 日本史B(4単位)
使用教科書 『日本史B』(実教出版)

1. 単元名 武家社会の展開と室町文化

2. 単元の目標

- (1) 建武の新政が短期間に崩壊した理由を理解する。室町幕府の組織・経済的基盤および守護大名との関係について、その特質を考察するとともに、日明貿易をはじめ室町幕府の外交政策について、当時の東アジアの動向を踏まえ理解する。【知識・理解】
- (2) 室町期における社会経済の発展、惣村の形成と土一揆の成立、応仁の乱と下克上の社会についての特質を文献・地図などの諸資料を活用し理解する。戦国大名の争乱と領国経営を明らかにしながら、様々な都市の発達について考察する。【思考・判断】【知識・理解】
- (3) 室町文化は今日の日本文化のルーツとされているが、動乱期・北山・東山文化それぞれの特色を、14世紀の東アジアの動向を踏まえた上で理解する。また、地域性や庶民性が深まっていくことに関心を持つ。【関心・意欲・態度】【知識・理解】

3. 指導にあたって

(1) 生徒観

一部の生徒を除き、日本史に対する興味・関心が必ずしも高いとはいえない。時には小中学校で学んだ基本的事項についても欠落していることがあり、それらを補いながら授業を進める必要がある。

(2) 指導観

この単元では、武家社会の展開と室町文化について学習するが、生徒にはなじみ深い歴史上有名な人物が数多く登場する。授業の中で歴史上有名な人物の業績や逸話を紹介することによって、生徒の学習に対する意欲や関心を高めることが有効であるのと同様に、鎌倉・室町時代のまとめ、戦国時代への導入として、中世に登場する歴史上の人物の履歴書作りに取り組みせ、調べた内容を他の生徒たちに分かりやすく説明する力を育てたり、学習に対する意欲を高め、学習内容の定着化を図る機会としたい。

4. 単元の指導計画(総時数11時間)

第1次 南北朝の動乱、室町幕府の政治と外交(4時間)

第2次 惣村の発展と応仁の乱(3時間)

第3次 室町文化、戦国大名の領国経営(4時間)

第1時 室町文化の特徴、動乱期・北山・東山文化

第2時 地域文化・庶民文化の興隆、新仏教の発展…本時

5. 本時の指導計画(総時数11時間中第9時)

(1) 本時のねらい

- ① 応仁の乱後、農商工業者・地方武士の自立的な動きが現われ、各地に新しい文化拠点がつくられ、京都の文化が地方に拡散することにより文化面でも大転換が始まったことを理解させる。また、庶民に親しまれた「御伽草子」等が生み出され、幕府の保護のもと最盛期を迎える臨濟宗や庶民に広がった一向宗や日蓮宗が浸透するなど、広い基礎に支えられたこの文化は、のちの日本人の生活に大きな影響を与えたことに気づかせる。【知識・理解】【思考・判断】
- ② 中世の歴史上の人物履歴書づくりに取り組み、授業で学んだ知識をもとに、調べた人物の業績等について基本的事項を踏まえた説明をすることができるようにする。【関心・意欲・態度】

(2) 準備・資料等

プリント、資料集、用語集、御文

(3) 本時・次時（該当部分）の展開

時間	学習内容	生徒の学習活動	教師の指導・留意点	評価規準 【観点】(評価方法)
導入 5分	○前時の復習・ 本時の学習内 容の確認	○教師の説明を聞いて、前時の要点 を確認する。 ○本時の学習目的・流れを確認する	○前時の学習について要点を挙げ る。 ○本時の内容を確認させる。	
展開 25分	○地域文化・庶 民文化の興隆 ○新仏教の発展	○発問に答えて、板書事項をプリン トに記入する。 ○文化の地方普及の様子を図説の地 図で、連歌、風流踊り、お伽草子 等について図説で確認する。 ○越前吉崎に居を構え布教した蓮如 により、北陸を中心に本願寺教団 の基礎が作られ、一向一揆が強力 化し、日蓮宗の日親が京都中心の 布教を行って町衆の信頼を集め、 法華一揆のもとを作ったことを確 認する。	○後年の朱子学の隆盛の源が桂庵 玄樹等にあった事を紹介する。 ○南北朝期から連歌が盛んになり 応仁の乱後、宗祇や山崎宗鑑が それぞれの時代を切り開いたこ とを明確にする。 ○旧仏教及び臨済宗等は応仁の乱 後衰退し、浄土真宗や日蓮宗が 宗勢を拡大した事を確認する。 ○今も浄土真宗の檀家に伝わる蓮 如の御文を紹介し、回覧する。	○応仁の乱後、各地 に文化拠点がつく られ、京都の文化 が地方に拡散する ことで文化面でも 大転換が始まった ことやこの文化が 日本人の生活に生 き続けていること に気づくことがで きる。【知識・理 解】【思考・判断】
15分	○人物履歴書作 り	○それぞれのグループで自分が調べ たい人物について話し合い、調べ る人物の重複を避ける。その後、 調べる人物が決まり次第、人物履 歴書作りに取りかかる。 ○人物履歴書が完成した者は、発表 の準備をする。	○各自が調べたい人物を円滑に決 められるよう、各グループを巡 回する。調べる人物が決まり次 第、人物履歴書作りに取り組ま せる。作業の進まない生徒には、 図説の該当箇所や図書館の参考 文献等を紹介する。	○人物履歴書作りに 取り組み、調べた 人物の業績等につ いて基本的事項を 踏まえた説明をす ることができるよ うにする。【関心・ 意欲・態度】
まとめ 5分	○本時のまとめ と次時の予告	○本時の学習を確認する。 ○人物履歴書を提出する（提出でき なかった者は翌日には提出する）。	○人物履歴書作りの進行状況を確認し、人物履歴書を回収する。 ○次時の予告をする。	

次時（該当部分）

導入 3分	○前時の復習・ 本時の学習内 容の確認	○前時の要点、本時の学習目的・流 れを確認する。	○前時の学習について要点を挙げ る。グループ内での発表の意義 を確認する。	
展開 10分	○人物履歴書の 発表	○各グループ内での発表を聞き、そ れぞれの発表内容の要点をまとめ る。内容の優れた作品について、 教師の全体に対する発表と補足説 明を聞き、学習内容を定着させる。	○各グループを巡回して、発表の 進行状況・各発表のまとめ具合 を確認する。 ○提出された人物履歴書の中から 最も優れた作品を紹介し、補足 説明を加える。	○調べた人物の業績 等について基本的 事項を踏まえた説 明をすることができる。【技能・表現】